

CITY OF YOKOHAMA

水道スマートメーターでもっと便利に ～全戸導入に向けて取組を加速します～

東京電力パワーグリッド株式会社の通信ネットワークを
活用した共同検針の取組

2024年12月20日
市長定例記者会見

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

スマートメーターとは

- 自動で使用量データを取得できるため、**検針業務**(1～2か月に1回)の**自動化**、**使用状況の見える化**につながる測定方法であり、電力業界では国の方針を受け広く浸透
- 一方で、導入コストが大きく、通信環境整備も必要なため、**水道では導入が進んでいない**

現行（目視での検針）



スマートメーターによる検針

【イメージ】



スマートメーター導入は、市民・水道局に大きなメリットが

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

市民(利用者)のメリット

①使用水量の見える化

毎日、1時間ごとの使用水量データが確認できるように！

②漏水・トイレの故障などの早期発見

③一人暮らしの高齢者も安心

水の不使用などの異変を察知！見守りにつながります

④検針員の敷地内立ち入りがなくなる

水道局のメリット

①担い手不足への対応

②災害対応力の強化

震災時に迅速に断水エリアを特定でき、円滑な復旧作業が可能に！

③施設整備の最適化

使用状況をより詳細に把握することで、より効率的な設備投資につながる

④脱炭素の推進

検針票のペーパーレス化や現地訪問がなくなることによるCO2削減効果も

横浜市は、
水道スマートメーターの全戸導入に
向けて取組を加速させます

<令和元年度～>

携帯キャリアによる通信を活用した第1次モデル事業

場所：緑区十日市場町
戸数：約460戸

【成果】

- ✓ 水道スマートメーターによる自動検針の**安定性を確認**
- ✓ 一方、全戸導入に向けて、**課題も把握**
 - ・ 導入コスト（メーター価格及び通信コスト）
 - ・ 通信が不安定な事例あり（他都市のケースより）



実際の水道スマートメーター

今回の取組 <第2次モデル事業>

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

新たな技術検証として、東京電力パワーグリッド(株)の通信ネットワークを活用した共同検針を実施(R7年10月～)

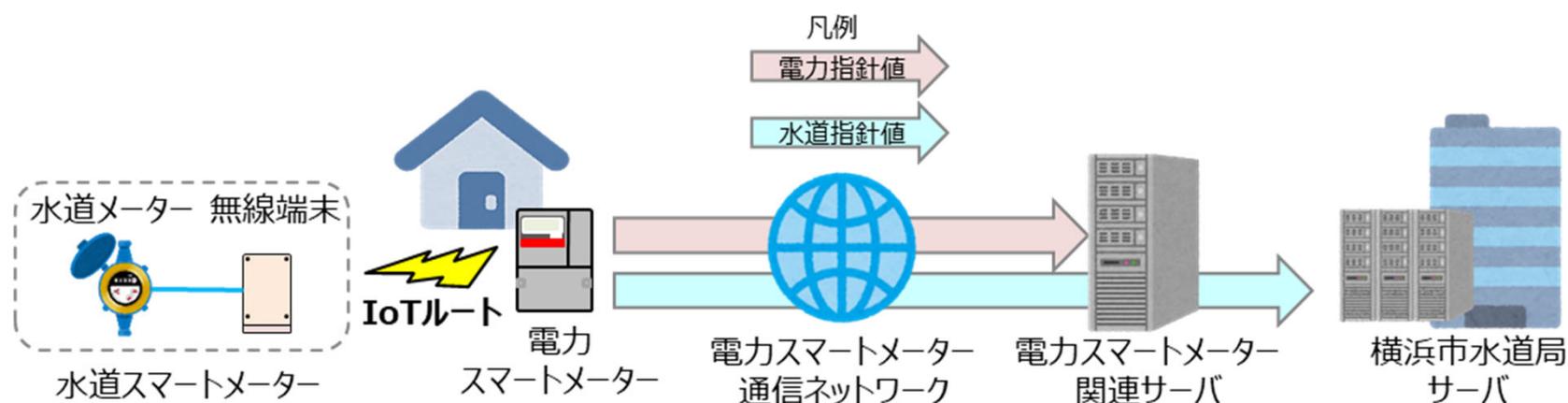
場所：保土ヶ谷区、西区、中区
戸数：約1,000戸

- スマートメーターによる電力会社との共同検針は政令市で最大規模
- 既にスマートメーター化している電力通信ネットワークを活用して
 - ・ 通信コストの低減
 - ・ 様々な環境下における通信の安定性

について、検証

共同検針とは

【共同検針イメージ】



- ▶ 水道スマートメーターから電力スマートメーターへ指針値を送信
- ▶ 電力スマートメーター通信ネットワークを活用し水道局サーバへ送信



共同検針用（防水型）の水道スマートメーター

- スマートメーター導入は、コストが最大の課題
- コスト低減のためには、全国的な普及が必要
- 導入に向け連携している、横浜市、東京都、大阪市の3都市（国内人口の2割）で、仕様の共通化等を推進

水道スマートメーターの市内全域導入、
全国への普及に向けて、他都市とも連携し
横浜市がリーダーシップを発揮していきます